

2016 年香港の日本語学習者背景調査

—年少者と成人の学習動機—

The Survey of Japanese Language Learners in Hong Kong

—The Motivations of Young Learners and Adult Learners—

山下 直子、梁 安玉、劉 礪志、李 澤森、李 夢娟

香港日本語教育研究会

要旨

2010 年から継続的に実施している香港の日本語学習者背景調査だが、これまでの調査対象者は主に成人の占める割合が高く、年少者の結果は明らかにされていない。そこで本調査では、日本語学習者を年少者(17 歳以下)と成人(18 歳以上)にわけ、学習動機の要因に焦点をあてた調査を行った。調査は、質問調査紙によって行い、学習動機の要因について年齢による相違点、共通点を明らかにした。分析には自己決定理論の尺度を使用した。調査の結果、年少者と成人の学習動機の要因の上位 4 項目は全く同じ結果であった。日本語の学習動機は、興味関心、そしてその興味関心と知識がつながることへのよろこび、世界のひろがりとしての期待であった。年齢を問わず、日本のポップカルチャーや日本旅行が学習動機の要因であることが確認された。

キーワード

年少者学習者、成人学習者、動機づけ、興味、価値

2016年香港の日本語学習者背景調査 —年少者と成人の学習動機—

山下 直子、梁 安玉、劉 礪志、李 澤森、李 夢娟
香港日本語教育研究会

1. はじめに

香港日本語教育研究会（以下、研究会）は、2010年より香港の日本語学習者を対象とした調査を毎年実施している（木山ほか 2011、宇田川ほか 2013,2014,2015、山下ほか 2016）。香港の日本語学習者の動機、目的に関する調査を継続的に実施しているが、調査対象者に占める成人の割合は高く、年少者の結果は明らかにされていない。木山ほか（2011）と山下ほか（2016）の報告でも年少者の日本語学習者の把握を課題に挙げている。そこで、本調査では、年少者（17歳以下）と成人（18歳以上）に日本語学習者をわけ、学習の動機づけに焦点をあてた調査報告をする。

2. 先行研究

2.1 香港の日本語学習の目的に関する調査

国際交流基金の調査（2008）では、香港における日本語学習の目的の傾向として、アニメやテレビ、ゲームなどの大衆文化、日本旅行などの影響が大きくなっていること、年少の学習者は、日本の大衆文化を積極的に受容した保護者の影響があることが報告されている。その後、10代から30代が主な調査対象者である日本語学習者背景調査（木山ほか 2011、宇田川ほか 2014、山下ほか 2016 など）でも、学習目的等の調査結果に大きな変化はなく、日本のポップカルチャーや日本旅行に興味を持ち、日本語の学習をしている学習者が多いと報告している。宮崎（2011）の中学生を対象にした調査でも、アニメや漫画など日本のポップカルチャーに興味を持っている生徒が多いことを明らかにしている。これまでの調査から、年齢を問わず、日本のポップカルチャーが日本語学習の目的やきっかけの大きな要因になっているといえる。

2.2 動機づけに関する研究

これまで動機づけに関する研究では、さまざまな理論が展開されている。そのひとつの自己決定理論（Deci&Ryan 2002）では、自己決定のレベルに応じて、無動機づけ、外発的動機づけ、内発的動機づけに区分されているが、外発的動機づけと内発的動機づけは二項対立ではなく、自己決定のレベルを細分化し、5段階（無動機、外的調整、取り入的調整、同一視的調整、内発的調整）の連続体と示している。自己決定のレベルを最も自律性の低い無動機から外的調整、取り入的調整、同一視的調整という3段階の外発的動機づけのプロセスから内発的動機づけにつながっているというものである。この理論をもとに廣森（2005,2006 など）は、自己決定尺度を作成、その尺度の分析により動機づけのレベルを調査研究している。

香港における動機づけに関する研究では、20代後半から40代前半までの生涯学習日本語学習を対象にした瀬尾（2011）の調査がある。「将来日本の会社で働く」といった自分のキャリアため（外発的動機づけ）ではなく、「ポップカルチャー」、「日本文化」、「日本旅行」といった「興味」（内発的動機づけ）が強いほうが、学習意欲が継続することが挙げられている。大学生を対象にした板井（2001）の研究では、日本語の学習を「趣味」と感じている比率が高いとしている。さらに、調査対象者の20代と30代の割合が81.3%を占める宇田川ほか（2014）の調査でも、学習動機は「興味」や「楽しみ」に関連する項目が上位であることを報告している。では、年少者はどうであろうか。日本語にどのような意味を見出し日本語の学習をしているのであろうか。自己決定理論に基づく動機の要因においても保護者やほかの外発的動機づけの要因により日本語の学習をしているのではないだろうか。また「興味」「楽しみ」などの価値はどこにあるのであろうか。

3. 調査目的

本調査では以下の2点を明らかにする。

- 1) 香港の日本語学習者の学習動機の要因は何か。
- 2) 年齢によって学習動機の要因に相違があるのか。17歳（高校生）以下の年少者学習者と18歳以上の成人学習者で共通点と相違点は何か。

4. 調査概要

- 1) 調査対象者：2016年11月に研究会が実施したJLPT応募者（N4とN5の応募者のみ）を対象とした調査活動のために集まった香港の日本語学習者。
- 2) 調査方法：調査協力者は調査用紙に直接記入する方法で回答し、研究会の担当者が回収する。質問項目はすべて中国語（繁体字）で作成したものを使用した。
- 3) 調査内容：質問紙は年少者（17歳以下）用と成人（18歳以上）用の2つを作成した。外国語教育に関する自己決定尺度として廣森（2005）、香港の日本語学習者の動機づけとして板井（2001）を参考に、まず、13項目の共通項目を作成、さらに香港の年少者と成人の学習者に適していると思うものを選びそれぞれ追加した。17歳以下には19項目、18歳以上には20項目について「全くそのとおり（4）」「まあまあ当てはまる（3）」「あまり当てはまらない（2）」「ぜんぜん当てはまらない（1）」の4件法で尋ねた。

5. 集計結果

5.1 調査協力者属性

調査協力者の年少者（17歳以下）は47名、成人（18歳以上）は339名であり、内訳は以下表1の通りである。

表1 年齢の内訳

年齢	8-11	12-17	18-22	23-29	30-39	40-49	50-59
人数	5	42	112	127	64	28	8
合計	47		339				

表2 職業の内訳

	小中高生	就労・会社員	定年退職者	副学士AD+HD ¹	大学生	大学院生	主婦	無職
人数	47	227	7	16	76	6	2	5

5.2 調査結果

5.2.1 年少者（17歳以下）の結果

まず、平均値の上位に挙がっているものをまとめる。上位4項目は、「2. 日本旅行をするとき日本語がわかると役に立つ」、「11. 日本語で勉強したことや調べたこと同士がつながるとうれしい」、「1. 好きなもの（漫画・ゲーム等）の日本語がわかるとうれしい」、「9. 日本語を勉強すると世界が広がる」であった。それ以降に続く、「17. 日本語を勉強して新しく自分の能力を高めたい」、「4. いろいろな資格を取りたい」、「12. 自分の将来にとって日本語は役立つと思う」の平均値は上位4項目とほぼ変わらない数値結果である。

次に下位をまとめる。「5. ほかの外国語（日本語以外）は好きじゃない」、「6. 外国語（英語・中国語以外）が話せないと恥ずかしい」、「18. 日本語だけで考えたり表現したりすることが好き」、「15. 親は日本・日本文化が好きだ」であった。本調査では2020年に控えた東京オリンピックについての興味を特別に加えてみた。「19. 2020年東京オリンピックに興味がある」の回答は標準偏差が高く、ばらつきがみられる。

¹ 香港では高校卒業後、2～3年で副学士が取得できる「Associate Degree」もしくは「Higher Diploma」コースがある教育機関がある。

表3 年少者の動機づけ

番号	質問項目	平均	標準偏差
2	日本旅行をするとき日本語がわかると役に立つ	3.74	0.44
11	日本語で勉強したことや調べたこと同士がつながるとうれしい	3.72	0.45
1	好きなもの（漫画・ゲーム等）の日本語がわかるとうれしい	3.57	0.62
9	日本語を勉強すると世界が広がる	3.57	0.54
17	日本語を勉強して新しく自分の能力を高めたい	3.55	0.58
4	いろいろな資格を取りたい	3.47	0.65
12	自分の将来にとって日本語は役立つと思う	3.47	0.55
10	日本語の文字や発音はきれいだ	3.40	0.61
3	私は日本語で日本に関連があること（漫画・ゲーム等）はよく話せる	3.38	0.68
14	もっと外国語を話せるようになりたい	3.38	0.80
13	日本語を習うことによってもっと友達ができる	3.21	0.75
16	外国の文化や考え方を知ることは大切だ	3.21	0.69
7	日本のおいしいものや有名なものを知っている	3.19	0.65
8	もうひとつの外国語（英語・中国語以外）を勉強しなければならない	3.15	0.78
19	2020年東京オリンピックに興味がある	2.91	1.04
15	親は日本・日本文化が好きだ	2.51	0.75
18	日本語だけで考えたり表現したりすることが好き	2.17	0.82
6	外国語（英語・中国語以外）が話せないと恥ずかしい	1.79	0.91
5	ほかの外国語（日本語以外）は好きじゃない	1.72	0.74

5.2.2 成人（18歳以上）の結果

成人の結果は表4の通りで、上位4項目は、年少者のと全く同じ項目であった。次に続く「12. 将来の選択肢を広げるのにつながると思う」、「16. 外国の文化や考え方を知ることは大切だ」、「13. 日本人やそのコミュニティーと交流を持ちたい」の3項目はほぼ変わらない平均値で、上位から4項目目である「9. 日本語を勉強すると世界が広がる」と劣らず高い数値である。下位は「8. 日本語の学習にお金と時間を費やすのは無駄である」、「5. 日本語の勉強以外にほかに興味があるものがない」、「6. 外国語（英語・中国語以外）が話せないと恥ずかしい」であった。オリンピックに関して、年少者と比較すると成人の平均値はわずかに高かった。

表 4 成人の動機づけ

番号	質問項目	平均	標準偏差
2	日本旅行をするとき日本語がわかると役に立つ	3.81	0.41
11	日本語で勉強したことや調べたこと同士がつながるとうれしい	3.64	0.49
1	好きなもの（漫画・ゲーム等）の日本語がわかるとうれしい	3.51	0.66
9	日本語を勉強すると世界が広がる	3.45	0.55
12	将来の選択肢を広げるのにつながると思う	3.44	0.61
16	外国の文化や考え方をすることは大切だ	3.43	0.61
13	日本人やそのコミュニティと交流を持ちたい	3.41	0.61
4	いろいろな資格を取りたい	3.37	0.66
15	日本語を勉強すると人生がより豊かになると思う	3.31	0.56
14	もっと外国語を話せるようになりたい	3.28	0.73
10	日本語は文字や発音はきれいだ	3.27	0.64
19	日本語を勉強すると自分の能力を発揮できる	3.21	0.58
3	私は日本語で日本に関連があること（漫画・ゲーム等）はよく話せる	3.03	0.78
20	2020年東京オリンピックに興味がある	3.01	0.91
7	日本のおいしいものや有名なものを知っている	2.96	0.68
17	日本語を勉強してもステータスは高くない	2.05	0.75
18	日本語だけで考えたり表現したりすることが好き	1.94	0.72
6	外国語（英語・中国語以外）が話せないと恥ずかしい	1.82	0.78
5	日本語の勉強以外にほかに興味があるものがない	1.62	0.69
8	日本語の学習にお金と時間を費やすのは無駄である	1.57	0.68

6. 分析

本調査の結果を、先行研究の自己決定尺度と照らし合わせてみると、上位 4 項目は年少者、成人を問わず、自律性が高い同一視的調整と内発的動機づけが 2 項目ずつであった。「2. 日本旅行をするとき日本語がわかると役に立つ」は同一視的調整で、興味関心から実用的価値認識だと捉える。「11. 日本語で勉強したことや調べたこと同士がつながるとうれしい」と「1. 好きなもの（漫画・ゲーム等）の日本語がわかるとうれしい」は、内発的動機づけで、新知識と既存知識がつながる、興味と知識がつながることの喜び感情である。また、「9. 日本語を勉強すると世界が広がる」は同一視的調整になる。将来、視野、友達や仲間、考え方、物理的場所など、日本語を勉強することから広がるものはいくつも想像できる期待的価値といえるだろう。

その次の年少者の結果では、「17. 日本語を勉強して新しく自分の能力を高めたい」、「12. 自分の将来にとって日本語は役立つと思う」は同一視的調整で、どちらも年少者の質問紙だけに採用した項目であった。この同一視的調整は、保護者や教師をはじめとする他者からの価値のすりこみがあり、取り入れ的調整、同一的調整という動機づけの変化があったのではないかと想像できる。また、「4. いろいろな資格を取りたい」は外的動機づけであるが、将来に期待した動機づけでもあろう。一方、「6. 外国語（英語・中国語以外）が話せないと恥ずかしい」という取り入れ的調整が低かったのは、どのような要因か。外国語ができないことは、それほど自尊心への影響がないということだろう。年少者の場合、外国語学習について自己決定性が低いと仮定すると、自尊心への影響も少ないのかもしれない。

成人の結果では、「16. 外国の文化や考え方をすることは大切だ」、「13. 日本人やそのコミュニティと交流を持ちたい」と異文化、興味と関わるものとの交流を取り入れたいという動機づけが見られる。「13. 日本人やそのコミュニティと交流を持ちたい」は、成人の質問紙だけに加えた。異文化だけでなく社会とのつながりも重要だと捉えていると見られる。最も平均値が低かった「8. 日本語の学習にお金と時間を費やすのは無駄である」は、日本語学習に何らかの価値を見出している表れである。三國（2012）の香港の成人日本語学習者に対する調査では、日本語学習が「不思議」「役に立たない」「時間の無駄」だと捉えられていることも明らかにされているが、本調査では、「時間の無駄」という感覚で日本語の学習をしているわけではないとかがえる。

本調査では年少者と成人の日本語学習者の回答の上位 4 項目が全く同じという結果になった。本調査においても、香港の日本語学習者は年齢を問わず、日本のポップカルチャーや日本旅行が学習動機の大きな要因であることが証明された。

7. おわりに

本調査では、香港の年少者と成人の日本語学習者の動機づけの要因を明らかにし、年齢による共通点、相違点を明らかにした。学習者の意欲の低さに関する課題は挙げられることが多い。瀬尾（2011）は、生涯学習者は、授業内容が「興味と結びつかない内容」、「興味と異なる内容」であることから学習意欲の喪失や減退を感じていることを述べている。英語教育においては、自己決定理論に基づく教室活動で教師が介入し学習者の動機づけ、自律性が高まることを示した（廣森 2006）。香港において継続的に日本語学習に励む学習者がいる一方、学習者の意欲の高め方や意欲の維持に悩む教師も少なくない。本調査では、年少者の調査対象者数が少なかったため、先行研究との照らし合わせによる分析で、因子分析までには至らなかった。しかし、本調査結果を踏まえたうえで、動機づけの要因を探る継続的な調査を行い、香港に日本語学習者の学習意欲を高め、主体的、自律的学習者の育成につながる授業や教材開発への参考となるような報告をしていきたいと考える。

【謝辞】

日本語能力試験協力委員会のメンバーである以下の方々には貴重なご提案やご助言をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

(名字の日本読みあいうえお順)

杉田 雅彦 在香港日本国総領事館広報文化部長
趙 達栄 香港日本文化協会副会長
陳 志誠 元香港城市大学教授
余 均灼 元香港中文大学教授

参考文献

- 板井美佐 (2001) 「香港における中国人学習者の日本語学習に対する動機(BF)、学習 ST 及び学習活動上の好みに関する調査：香港 4 大学機関の調査から」 『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 16,83-104
- 宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志 (2013) 「香港の日本語能力試験受験者減少の要因を探る－アンケート調査実施報告－」 『日本學刊』 第 16 号,233-246
- 宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志 (2014) 「香港の日本語学習者減少の要因－調査報告－」 『日本學刊』 第 17 号,107-120
- 宇田川洋子・梁安玉・李澤森・侯清儀・李夢娟 (2015) 「香港の日本語学習者における言語学習ビリーフ－2014 年香港日本語学習者背景調査報告－」 『日本學刊』 第 18 号,121-133
- 木山登茂子・中野貴子・周宏陽・上田早苗・望月貴子・蘇凱達・青山玲二郎 (2011) 「2010 年香港日本語学習者背景調査報告」 『日本學刊』 第 14 号,176-195
- 国際交流基金 (2008) 「日本語教育機関調査・2006 年 海外の日本語教育の現状」
- 瀬尾匡輝 (2011) 「香港の日本語生涯学習者の動機づけの変化－修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析から探る－」 『日本學刊』 第 14 号,16-39
- 廣森友人 (2005) 「外国語学習者の動機づけを高める 3 つの要因：全体傾向と個人差の観点から」 『JACET Bulletin』 41,37-50
- 廣森友人 (2006) 『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』 多賀出版
- 三國貴保子 (2012) 「香港における日本語の民族言語的バイタリティー」 『言語教育研究』 第 3 号,53-62
- 宮崎紀子 (2009) 「香港の初等教育における日本語教育の現状－小学校と語学学校との比較を通して－」 『第 8 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム会議録 アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究』 189-195 向日葵出版社
- 宮崎紀子 (2011) 「香港の中等教育における新しい時代の日本語学習への提言－順徳聯誼會翁佑中学の事例から－」 『日本學刊』 第 14 号,159-175
- 山下直子・梁安玉・劉礪志・李澤森・李夢娟 (2016) 「2015 年香港日本語学習者背景調査報告」 『日本學刊』 第 19 号,185-197
- Deci,E.L., & Ryan,R.M. (2002) . *Handbook of self-determination reserch*. Rochester, NY: University of Rochester Press.